

一 道徳教育郷土資料作成の趣旨

道徳教育を推進するに当たって、その中心となるものは道徳の時間である。道徳の時間はねらいとする道徳の価値に照らして自分はどうであるかなど、人間の生き方について自覚を深める時間である。このような道徳の時間において活用する資料は、きわめて重要な役割を持っている。特に郷土の先人の伝記や逸話、あるいは、郷土に伝わる民話などを題材にした資料は、児童・生徒に強い関心を持たせることができるとともに、高い教育効果が期待できるものと考ええる。

二 作成の基本的態度

- 題材については県内各地域から取材に努めた。
- 県内の人物や伝記・逸話、あるいは民話などに題材を求めた。
- 資料には、数項目のねらいとする価値を含んでいるが、作成者の意図を尊重してねらいとする主な価値を示した。

三 利用上の留意点

- 「対象学年」：一応の目安であり、学級の実態に応じて活用すること。
- 「ねらい」：資料には、ねらいとなる価値が数項目含まれているが、ねらいとする価値を焦点化した。(数字は道徳の内容項目)
- 「展開の大要例」：展開に当たっての一例を示した。児童・生徒の実態に応じて指導計画を立てること。